

昔の親子と今の親子を比較して

宮崎市 チャイルドハウス大淀保育園園長
海老原 恵子



■ 略歴

昭和23年9月3日生
昭和44年4月 社会福祉法人 江平保育園
昭和60年4月 私立保育園
チャイルドハウス大淀設立（60名定員）
平成8年7月 現在に至る

通算して三十年ぐらい保育者をやっています。「子供だけ相手の仕事だったら、どんなにいいだろう」と数えきれない位思ってきたし、「この仕事大いすき」と思う今でも、「親がめんどう」と思うことが、年に一、二回はあります。長い保育者生活の中で、多くの母親達と接してきました。昔の母親達にくらべ、自信のない母親、無知な母親が何と多い今でしよう。核家族、近所付き合いの簡素化などから、子育ての不安や疑問を、どこにも持つていけない状況が、こんな母親達を作っているのではないでしょうか。多くの保育園で、保育のベテラン者が、園内外からの育児相談をうける企画を持っています。このような相談の場がある事を、たくさんの若い母親達に知ってもらいたい子育ての情報交換や相談をする事によって不安やストレスを解消していただきたいと思います。そして、もうひとつ、今の母親たちの姿を浮きぼりにしている事は、入園、一時あずかりの理由として、「自分と一日中いる子供がかわいそう」とか「子供の気持ちがわからない。ノイローゼになりそう」というのが増えています。昔の入園の理由のほとんどは「共働き」でした。

さて そんな母親達の具体例として

その一、テレビのコマーシャルで、パンパースの宣伝があります。「うちの子供は、テレビのように、ブルーのおしっこをしないのですが大丈夫ですか」と相談の電話をうけた事があります。

その二、母親と二人暮らしの三才児。夕方の迎えで「お父さんのお迎えヨ」と言うと「違うヨ。あれはお母さんのお父さんヨ」と言う。実父ではない。同居の男性がいるのです。三才という年令で、一生懸命考えた末の「自分との関係」に痛々しいものがありました。

その三、父と母と三才男児の暮らし。毎朝七時三十分登園。降園十九時の子供。母親の仕事は三時終了。熱の時、必ず市販の薬。微熱でも登園。噛みつきが多く、多動児。今頃、手の平や甲への火傷のような跡が、気になります。この子の心や体への、やさしい配慮はあるのでしょうか。母親の心身の不安定さが、幼児虐待というケースにならなければと、案じます。

そして、爪切りを恐がる母親の多い事。昔は父親の膝の中で、切ってもらったものです。ひげ剃り跡をはしゃぎながら、痛がったり、タバコ臭かったけどあったかくて、安心感があり、あの爪切りの時間が、自分達を守ってくれる、大好きな父親を確認する、ひと時でもありました。今は、園で切ってあげる子供の多いこと。保育は、新保育指針になり、遊びの中から学ぶ教育、心を育てる教育に力を入れています。心を育てる事で、適度のストレスやいじめをのり越え、育っていく能力を養うことでしょう。